

Governor's Monthly Letter

GM

ガバナー月信
会長・幹事殿

Rotary
District 2710

2025-26 ROTARY
INTERNATIONAL
District 2710

Vol. **08**
2026.2

DEI

会長・幹事の皆さま、そして会員の皆さま、こんにちは。
2025年の手続要覧からDEIについての記述が無くなりました。
ロータリー章典においても、DEIという言葉や関連する方針や規範などはすべて削除され、「参加促進、歓迎され、親しみやすい文化」などの新しい言葉に入れ替わりました。
11月のロータリー研究会において、フランチェスコ・アレツォ国際ロータリー(RI)会長は次のように説明されました。
「RIは米国イリノイ州にある法人なので、そこでの法律・規則に従うことになります。
ロータリーは、急速な変化に対応する必要があるのです」
分かりやすいですね。
でも例会で「ロータリアンの行動規範」を唱和されているクラブや、大きく掲げて下さっているクラブの皆様にはRI役員として申し訳ないと思っております。
私はロータリーのことで迷ったことがあれば、「ロータリーの目的」に戻って考えることにしています。
「価値ある企業活動の基本として奉仕の理念を奨励・育成すること」
これは1951年から私たちが目指すものとして全く変わっていません。

Enjoy Rotary

皆さんロータリーを楽しみましょう。



Contents

広島のとろりとロータリー	02	地区補助金事業報告[宇部西RC]	11
第2回ガバナーエレクトラニグセミナー (GELS#2)に参加して	04	地区補助金事業報告[広島東南RC]	12
第1回ガバナーノミニラニグセミナー (GNLS#1)に参加して	05	地区補助金事業報告[宇部RC]	13
第54回ロータリー研究会に参加して	06	地区補助金事業報告[福山赤坂RC]	14
広島新世代RC認定状伝達式報告	07	地区補助金事業報告[広島北RC]	15
地区補助金事業報告[東城RC]	08	呉RC創立75周年記念式典報告	16
地区補助金事業報告[柳井西RC]	09	府中RC創立60周年記念式典報告	17
地区補助金事業報告[広島中央RC]	10	世界ポリオデー「下関海苔マラソン」報告	18
		新会員紹介/会員の増減・出席率	19

《今月の特別月間》

平和構築と
紛争予防月間





広島の平和とロータリー

国際ロータリー第2710地区 パストガバナー

井内 康輝

(広島南RC)

ロータリーの綱領(目的)には平和とロータリーに関して以下のように表されています。

“ロータリーの目的”は、意義のある事業の基礎として奉仕の理念を推奨し、これを育むことにある。具体的には、次の項目を奨励することにある。

第1: 知りあいを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2: 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第3: ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4: 奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

すなわち、ロータリーの目的を簡潔に述べれば、奉仕活動を通して、世界の平和を構築し、それを継続することをめざす、とされていると思われます。

それでは“平和とは”一体何か、どのような状態と定義されるのでしょうか。

ノルウェーの哲学者であり、平和学の父であるヨハン・ガルトウングは、平和を積極的平和と消極的平和に分け、世界中、構造的暴力をなくすことで積極的平和を実現すべきと述べていますが、消極的平和をめざす立場からは、さまざまな要因による争いをなくし、人々が平穏に暮らし、生涯を全うできる世界を作ることでしょう。ロータリーが目指す奉仕による平和の達成は、世界中から飢えや貧困をなくし、教育や医療が、平等に人々に与えられ、青少年が自分の未来を描くことができる状況を作り出すことともいえるでしょう。

ロータリーは今年創立120年を迎えましたが、20世紀中に2度の世界大戦を経験しています。1914年にはポール・

ハリス自身は、戦争を避けるために「寛容」の必要性を叫んでいます。寛容のもととなる人々の異文化理解は必ずしも順調に広がっているとはいえませんでした。1945年、国連が結成された際、ロータリーはその指導的役割を果たしました。さらに、ロータリー財団は、2002年、平和および紛争解決の分野での国際問題にかかわるロータリー・センターを開設し、世界の8大学7ヶ所(日本では国際基督教大学、他にアメリカ、デューク大、ノースカロライナ大、イギリス、ブラッドフォード大、オーストラリア、クインズランド大、ウガンダ、マケレレ大、トルコ、パーチェスヒル大、スウェーデン、ウブサラ大)において、若い人材を対象に主たるプログラムとして修士課程2年間の教育を行っています。これまでに115カ国以上の出身者からなる、1800人以上の若者がこのセンターを卒業し、国連などの国際機関やNGO、民間団体などで世界平和のために活躍を続けています。日本で学ぶ学生たちは、研修旅行として広島を訪れ、原爆被災の実相を学ぶ機会を与えられています。(2024年まで、2025年からは東北大震災津波と隔年毎に学ぶように変更されました。)

広島は世界最初の原爆被災を受けた都市であり、その被害については、世界に広く知られています。したがって広島で“平和問題”を語るときは、ロータリーのめざす視点とは少し異なって、“核兵器禁止”の行動が注目されます。核兵器の反対運動は1950年頃から活発となり、その成果は世界で広く認められ、2024年12月のノーベル平和賞の受賞に結び付けました。さらに、2024年4月、当時の岸田文雄内閣総理大臣の主宰するG7サミットが広島で開かれ、世界の首脳(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、EU)が広島を訪れ、平和公園の慰霊碑に参拝し、記念資料館で被爆資料を見学しました。これは今なお、世界中で

紛争(戦争)が絶えず、多くの人々の命が失われているという現状に対して、国連の紛争抑止力が働かず、逆に核兵器を紛争解決の手段として使用することを示唆する海外の首脳が現れたという事態を反映するものと考えられます。

広島市には14のロータリークラブがあり、これらクラブによってこれまで様々な平和をめざす活動が行われてきました。私の属する広島南ロータリークラブでは、日本から輩出した3人目の国際ロータリー会長、田中作次氏が、1年間に3ヶ所で世界平和フォーラムを開くことを提案され、その開催地のひとつに広島が選ばれ、その実施が託されました。海外からの約800人の参加を含め2600人以上の参加者が広島国際会議場に集い、2013年5月17-18日の2日間、平和をめざす熱い討論を行いました。全体フォーラムⅠでは“新世代は平和のために何をすべきか”を、前日のワークショップをふまえて議論し、全体フォーラムⅡでは“平和はあなたから始まる”としてロータリアンの実践を訴えました。

これ以外にも広島東南ロータリークラブを中心に、被爆を耐えぬいた樹木を世界に贈る運動など特筆すべきものがあります。前述したG7サミット後、世界の首脳たちが資料館に残した平和メッセージは、2710地区の2023-24年度地区大会の記念行事としてロータリアンの寄付によって石碑とし、比治山公園に9基が建立されました。広島市もこれを受けて、比治山公園を平和の丘として再整備し、平和記念公園とともに平和へのメッセージを発信する場とする計画をすすめています。

広島では、高齢化により被爆者の存命する数が減少していることから、青少年に被爆体験を語り継ぎ、核兵器廃絶とともに世界平和を希求する存在として育てたいとの思いがあります。広島市教育委員会では公立小・中・高校での平和学習を実施しており、その教本を作成しています。また市内の小学校の6年生約1万人は毎年、8月6日の平和祈念式典でメッセージとして発表されることも平和宣言の作成に携わります。すなわち全員が作文を書き、審査によって優秀作品20点を選び、

その著者20人の共同作業として平和宣言をつくり、うち2名が代表として会場で発表し、全国へ全世界へ中継されます。中学生は、年間を通して海外から平和公園を訪れた人に英語で被爆の実相を語るピースボランティアの活動を続け、高校生は被爆者の体験を聞いてそれを絵として残し、資料館に飾る活動を続けています。

また、広島市が主催する青少年国際平和未来会議(International Youth Conference for peace, IYCPF)では隔年毎に広島市に50名以上の海外の青少年が集まり、日本の高校生や大学生とともに1週間、起居をともにして世界の平和のために何ができるかを議論し、広島アピールとして発表してきています。広島開催でない場合はドイツ、ハノーバー、ロシア、ボルゴグラートなどを会場都市として集まり、同様のプログラムを展開しています。この他にも広島市や広島県からは多くの青少年を海外の国際会議に派遣し、世界に広島からの平和の発信を続けています。

これらの会議を通して学ぶことは、世界平和の達成のためには、世界中の人々のもつ多様な文化、生活習慣などの相互理解と互いにそれらに対して寛容な精神をもつことであると思えます。





第2回ガバナーエレクトラーニングセミナー (GELS#2)に参加して

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナーエレクト
脇 和也
(宇部RC)

シナリオその4＝「会長エレクト・ラーニングセミナーの初日、グループ討議で一人の会長エレクトが会話を独占し、ロータリーの行動計画の優先事項について反対意見ばかりを述べています。あなたはこの行動がほかの会長エレクトに悪影響を及ぼしていると感じています」。ではあなたはどのように対処しますか。お答えください。

ロータリーのセミナーがトレーニングからラーニング方式に変わってGELSでもいくつかのシナリオをもとに少人数で意見を出し合います。冒頭に紹介したのは2025年11月18日、神奈川県横浜市のバシフィコ横浜で行われたGELS#2のセミナーでの演習課題のひとつです。小会議場内に「コの字」に座った参加者の真真中でファシリテーター役のバストガバナーが矢継ぎ早に質問を浴びせす。躊躇なくしかも当意即妙に答えを探さねばなりません。頭は常にフル回転、居眠りなどできません。

セミナーはやはりバシフィコ横浜を会場に9月8、9日と開催されたGELS#1に続くものでした。この時には2日間にわたって1回75分のセッションを7回にわたってこなすハードなスケジュールでした。それに比べて今回は1回のみ。ただし、エレクトだけではなく同じ地区のノミネーとの合同での実施でした。ファシリテーターの問いに私以上に的確な回答を述べる小根森直子ノミネーには頼もしさを感じもっぱら聞き役に徹する結果となりました。

一方でエレクトにとってGELS#2は2026年1月11日から5日間、米国フロリダ州のオーランドで開催の国際協議会の予行演習としての意味もありました。ラーニング形式の協議会が具体的にどのように展開されるのか。その紹介も兼ねて多くを学び取ることができました。同時に私のパートナーも「国際協議会におけるパート

ナーとしての役割」といったテーマのセミナーに参加しガバナー(私)をうまく操るコツなどを会得したようでした。

またこの日のハイライトはセミナー終了後の晩餐会でした。RIのフランチェスコ・アレツォ会長ご夫妻を迎えておよそ300人が参加し、晴れやかな宴となりました。参加者への注意書きとして「ドレスコードはブラックタイ・オプション」とあり、着慣れぬタキシード姿で出席しました。会では和やかな中にもエンドポリオへ向けての決意などロータリー尽くしの充実した時間になりました。大いにエンジョイして翌日からのロータリー研究会に臨むことができました。



ただ、GELS#2を終えて地元に戻った翌日、同期のエレクト34人によるグループラインに訃報が飛び込んできました。2820地区(茨城・栃木)のエレクトが心筋梗塞で急逝されたとのこと。GELS#2では議論し懇親を深め、ともにアメリカでと別れたばかりでした。享年77歳。ただただご冥福をお祈りするばかりです。 合掌



第1回ガバナーノミニーラーニングセミナー (GNLS #1)に参加して

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナーノミニー
小根森 直子
(三次中央RC)

2025年11月18日、パシフィコ横浜にて4日間にわたり開催された第54回ロータリー研究会。その付属プログラムとして、第1回ガバナーノミニーラーニングセミナー(以下、GNLS #1)が実施されました。全国から集まったガバナーノミニーにとって、まさに新たな一歩を踏み出す機会であり、私自身も大きな期待と緊張を胸に臨みました。

最初に、GNLSチームリーダーである旭川西RCの久木佐知子RIラーニングファシリテーターより、地区ガバナーになるまでに必要な準備について丁寧な説明をいただきました。続いて、第2750地区東京恵比寿RCの伊藤千恵バストガバナーから「リーダーになるための準備」と題したご講話がありました。ノミニー年度には多くの行事やセミナーに積極的に参加し、どん欲に学び続ける姿勢が求められること、ロータリーに関する正確な認識と知識を身につけること、そして地区の継続性を意識しながら行動計画に沿って構想を練ることの重要性を強調されました。これらは私にとって大変貴重な示唆であり、まだまだ準備が足りていないと痛感する良い機会となりました。

その後、参加者は6つのグループに分かれ、ガバナーエレクトの皆さんとの合同セッションが行われました。私は脇和也ガバナーエレクトと同席し、心強さを覚えるとともに、互いに意見を交わす中で多くの学びを得ました。セッションはRLI方式で進められ、神戸須磨RCの滝澤功治RIファシリテーターの巧みな進行により、会場全体が自然に引き込まれていきました。参加者は皆、心地よく議論に加わり、活発な意見交換が行われ

ました。提示されたのは、地区の継続性を保つための取り組み、地区内で対立が生じた際の対応、さらには課題や問題を含む6つのシナリオへの向き合い方など、実践的で具体的な内容でした。私自身も脇和也とともに発言する機会をいただきましたが、改めて脇和也エレクトの勉強熱心さには感心いたしました。

GNLS #1は半日の短いプログラムでしたが、今後の準備の方向性を見通すことができ、身の引き締まる思いを抱きました。同期のガバナーは32名、そのうち5名が女性で、平均年齢は64歳。まだ2地区のノミニーが未定ではありますが、すでに仲の良い雰囲気形成されており、明るく前向きな空気に包まれています。こうした仲間と共に歩めることは、大きな励みであり心強さを感じます。

さらに今回のロータリー研究会では、フランチェスコ・アレツォRI会長やホルガー・クナーク財団管理委員長の貴重な講話を拝聴することができました。世界のロータリーを牽引するリーダーの言葉に触れ、改めてロータリーの理念と使命の重みを実感しました。そして何より、全国から集まった素晴らしいロータリアンの皆さんと出会い、交流できたことに心から感謝しています。

GNLS #1を通じて得た学びと出会いは、これからの歩みにおいて大きな糧となるでしょう。ガバナーノミニーとしての責任を改めて自覚し、地区の未来を見据えながら、謙虚に、そして誠実に準備を重ねてまいりたいと思います。





第54回ロータリー研究会に参加して

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 ガバナー
土肥 慎二郎

2025年11月17日～20日、横浜の地において、第54回ロータリー研究会に参加しました。

水野RI理事が招集、フランチェスコ・アレツォRI会長と、ホルガー・クナーク ロータリー財団管理委員長を迎えての開催でした。

ロータリー研究会は「アメ」と「ムチ」

まずはアメから…

RI会長とTRF管理委員長を交えての晩餐会です。大勢のロータリアンと楽しい時を過ごします。



そして今年のムチは…

フランチェスコ・アレツォRI会長は、「急速な技術変化の中でロータリーの使命は人類の道徳的対話を守り、平和を築くことだ」と強調しました。



プログラムでは、元気なクラブづくりやポリオ根絶、日本の寄付文化を育て変革するための多彩な取り組みが展開されました。

会員の日常をお笑いで再現した寸劇に加え、NIDでの出会いや感動、写真コンテスト、尾身茂先生のご講演など、様々な事例や想いが共有されました。



水野RI理事と出村委員長らによる、台北国際大会参加推進パフォーマンス

ロータリー研究会は、ロータリーを知り世界中のロータリアンと交流することが出来る貴重な機会です。

来年は大阪で開催されます。

多くの皆様の参加をお待ちしております。





広島新世代RC認証状伝達式報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島新世代RC 会長
諏訪 昭浩

去る11月21日、広島新世代RCの認証状伝達式ならびに祝賀会を、例会会場である広島市中区のおりづるタワー5階 Future Presentation Room にて開催しました。

当地区からは、土肥ガバナーはじめ、諏訪、大之木、脇、井内、上田パストガバナー、脇ガバナーエレクト、小根森ガバナーノミニーにご参加いただき、また、他地区からは、RID2580嶋村パストガバナー、RID2690金谷ガバナーエレクトにも駆けつけていただきました。これらのご来賓を含め、アメリカを含め北は北海道、南は沖縄まで、国内外の12地区42クラブ、76名の方々にご参加いただき、まさにロータリーの友愛を大変うれしく感じる賑やかな会になりました。

認証状伝達式では、会場に設置された国内最大級の12Kスクリーンを駆使した当クラブのオープニング動画に続き、新クラブのアドバイザーである土肥ガバナーから認証状をいただき、土肥ガバナーの設立における多大な貢献に対して感謝状を差し上げました。続いて、大之木パストガバナー、嶋村パストガバナーにご祝辞をいただきました。

土肥ガバナーには、最初にご相談申し上げてからこれまでの設立経緯を明確に述べていただきました。シニアリーダーとしての会員増強に対するお覚悟を感じる大之木パストガバナーのご祝辞では、「独善ではなく孤立でもなく、ロータリーの友愛を生かした光明となって当地区の行く手をあかあかと照らす存在になることを願う」という、心引き締まるお言葉をいただきました。設立のきっかけとなったと言っても過言ではない嶋村パストガバナーからは、私と酒を酌み交わした過去、「人を育てる」という発想に共感したという、ご支援いただいた方々を代表するかのような温かいお言葉をいただきました。

祝賀会では、2年前から新クラブ設立に関して相談に乗っていただいている井内パストガバナーの、「ロータリーに一石を投じてほしい」という乾杯のご発声に続き、広島出身のミュージシャンで柳ジョージとレイニウウッドで活躍された上綱克彦さんに演奏を披露していただきました。



当クラブはスポンサークラブを持たず、固定事務所や例会での飲食を省いて固定費を最小化し、会費を低く押さえました。五大奉仕全てにまんべんなく取り組むのではなく、まずは人を育てるための「クラブ奉仕」を基本に、1932年の手続要覧に明記されているように、ロータリアンが自己研鑽によって良い人間、良い職業人になろうとする義務を果たすことを前提に、それをクラブが最大限サポートするというクラブの義務を果たすという、近年伝達されにくくなったロータリーの根幹を成す思想を実現できればと思っています。そして、その時代の問題解決の主役となるべき新世代を育てる「青少年奉仕」と、広島に縁があるクラブとして平和貢献活動を特に重視して参ります。

こうした新しい試みは、決してこれまでのやり方や考え方を否定するものではなく、会員減少が止まらないロータリーにおいて、新しいことも試してみようではないか、というだけのことです。ロータリーでは仲間同士の友愛が大切であり、設立にあたってはこのことを最も重視してきましたので、これまで所属していたクラブにご迷惑をかけてはならないという配慮から、事前に十分な説明を試み、いわゆる会員の引き抜きは一切いたしませんでした。しかし、設立方法が多くの前例と異なることもあり一部誤解が生じたせいで信じがたい逆風が吹き、一時はロータリーの友愛の存在を疑いたくなるような非常に辛い経験もいたしましたが、これは私の不徳のいたすところであると大いに反省しております。

どうか、広島新世代ロータリークラブとその会員を、ロータリーの仲間として温かく迎えていただきますよう、創立会長として心からお願い申し上げます。



地区補助金事業報告〔東城RC〕 こども園に病後児保育用テントを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 東城RC 副会長
名越 圭佑
(東城RC)

東城ロータリークラブは、国際ロータリー第2710地区2025-26年度地区補助金を活用した奉仕プロジェクトとして、2025年8月18日、社会福祉法人おぬか尚友会が運営する幼保連携型認定こども園「小奴可こども園」へ、病後児保育で使用するテント1基を寄贈した。

近年、共働き世帯の増加などにより、病後児保育のニーズは年々高まっている。一方で、屋外での受け入れ環境や待機スペースの整備には、施設側の負担も大きい。今回寄贈したテントは、病後児保育時の一時的な待機や動線確保、天候への対応を目的としており、子どもたちがより安全で安心して過ごせる環境づくりに役立ててもらうことを目指した。

贈呈式には、小奴可こども園の吉川園長をはじめ、瀬尾PTA副会長、関係者が出席し、和やかな雰囲気の中で行われた。園からは心温まる謝辞が述べられ、園児たちからは元気いっぱいのお礼の言葉と歌の合唱が披露され、会場は笑顔と拍手に包まれた。地域の未来を担う子どもたちとの直接のふれあいは、クラブ会員にとっても大きな喜びと励みとなった。

この贈呈式の様子は、2025年8月23日付の中国新聞朝刊にも掲載され、地域に向けて本プロジェクトの意義を広く発信する機会となった。ロータリークラブの奉仕活動が、地域社会の身近な課題に寄り添うものであることを、改めて多くの方に知ってもらうことができたと感じている。

また、同年10月5日に開催された小奴可こども園の運動会にも参加し、園児や保護者、地域の方々との交流を深めた。当日はあいにくの雨天となり、運動会は屋内での実施となったが、寄贈したテントも設置され、保護者や来場者へお披露目いただいた。実際の行事の中で活用される様子を見ることで、本プロジェクトが現場で確かに役立っていることを実感することができた。

東城ロータリークラブは、これからも地域の声に耳を傾け、子どもたちや子育て世代を支える活動を大切にしていける。小さな支援であっても、積み重ねることで地域の安心と笑顔につながる。今回の取り組みを一つのきっかけとして、今後も継続的な奉仕活動を通じ、東城町の未来づくりに貢献していきたい。





地区補助金事業報告〔柳井西RC〕 発達障がい児童たちと、みかんの収穫体験とバーベキューを

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 柳井西RC 会長
弘田 裕子
(柳井西RC)

「めっちゃ楽しかった」、「みかんいっぱいとったんよ」、「袋掛け上手じゃけえ、見ちょってよ」、「お肉おいしいね」。

2023—24年度例会。柳井西ロータリークラブでは、児童発達支援施設の方をお招きし、卓話をいただきました。この卓話で、発達に心配のある子どもたちの現状、すなわち生活のほとんどを家庭、学校、施設など限られた空間で過ごす子どもも多く外部からの刺激が少ないこと、他の子どもたちとの交流が希薄なこと、保護者の方も、同様な環境下にある他の保護者との、いわゆる「ママ友」のようなネットワークができづらいこと等を知ったことが今回のプロジェクトの出発点でした。

その後、近郊の子ども達を対象に、食事の提供、学習支援など子ども達の健やかな成長につながる居場所づくりを提供している「やないしらかべ「絆」ねっとわーく」からも話を伺ったところ、資金面やマンパワーの面で制約を受け、なかなか活動が実施できないという現状も知りました。

このようなお話を通じて、そうした子どもたち、そしてそれぞれのご家族が相互に交流し、互いの理解と成長を支え合う場をつくりたいとの思いが生まれ、その思いを形にすべく、柳井西ロータリークラブの会員総意で今回のプロジェクトを企画・立案し、2025年11月1日に開催した次第です。

発達に心配のある子どもたちを対象にしたプロジェクトですから、当クラブとしても企画・立案から詳細設計に2年をかけ、「子どもたちの笑顔のために」を合言葉に、考えられるリスクを洗い出し、会員全員でひとつひとつ解決していきました。最後に残った問題点が日程です。多くの施設が関係するため、候補日が一日しかとれません。雨天中止もやむなしという危機的状況の中で最後に力を発揮したのは、会員の中に突如としてあらわれた「晴れ女」「晴れ男」です。

当日朝まで降り続けていた雨は、集合時間にはピタリと止みました。

プロジェクトには、やないしらかべ「絆」ねっとわーくの活動に参加している子どもたち、柳井市内の児童発達支援施設5施設に通う子どもたちとご家族のほか、各施設関係者、そして当クラブ会員を含め、約100名が参加しました。

大型バス2台に分乗。まずは、みかんの収穫体験と袋掛け体験を行うため周防大島町の「柑橘農園 河原ファーム」に向けて出発です。農家の方からみかんについて学んだあと収穫や袋掛けの方法について教わり、体験を開始しました。農家の方に教えてもらいながら



の体験なので、高級みかんの袋掛けも安心して試してみることができました。子どもたちは、「おいしい、おいしい」「あの子は20個もとったんよ」と楽しそうに会話し、たくさん笑顔を見せてくれました。

なお、「次はバーベキューだから、みかんをあまり食べ過ぎないように」と事前に注意していましたが、「10個も食べたよ」「私たちも10個」との声を聞き、この注意は効果がなかったことを通感しました。

続いて、柳井市大島の「やまびこふれあいセンター」に移動し、青空の下でBBQとゲームを楽しみました。ロータリアン若手7人衆が朝早くから設営した会場で、子どもたちは焼き立てのお肉を味わいながら周囲でかけっこし、焼きそばを食べていたかと思うと、おにごっこするなど笑顔と歓声で周囲をうめつくしていました。マッシュマロを自分で焼く体験にも挑戦しドヤ顔もみせてくれました。また地元柳井、周防大島に関するクイズは、子どもたちが自分たちの住む地域のことを知るよい機会になったと思います。

ご家族や施設関係者の温かい表情にも触れ、参加者一人ひとりが心を通わせる時間となりました。また、この時間を通して交流を深めることができ、交流の中で生まれた絆は、会員にとってもかけがえのない感動を与えてくれました。

この活動を通じてクラブ会員全員参加により会員の団結力が高まり、ロータリーの良さを実感しました。

柳井西ロータリークラブは、今後も地域とともに子どもたちの健やかな成長を応援してまいります。



地区補助金事業報告〔広島中央RC〕 車椅子ソフトボール競技用車椅子 寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 人間尊重・社会奉仕委員長

下原 唯千夏

(広島中央RC)

このたび、広島中央ロータリークラブでは、地区補助金を活用し、車椅子ソフトボール競技用の車椅子1台を寄贈する事業を実施いたしました。

寄贈先は、広島県内で障がい者の就労支援やひきこもり相談支援などを行っているNPO法人FOOT & WORKです。同法人では、車椅子ソフトボールの普及にも力を入れており、地域の中で年齢や障がいの有無を越えて、誰もがスポーツを楽しみ、交流できる場づくりを進めておられます。

今回寄贈した競技用車椅子は、主に車椅子競技が未経験の障がいのある方や、学生などが体験会などで使用できるようにすることを目的としています。現在、競技用車椅子の台数には限りがあり、参加希望者がいても体験の機会が十分に提供できない状況がありました。今回の寄贈により、より多くの方に安全かつ本格的な競技体験を提供できる環境の整備が期待されています。

また、日本代表の車椅子ソフトボールチームは、国際大会での優勝実績もある、世界的に高い競技力を持つ強豪チームです。このような背景を持つ競技に地域で触れる機会を増やすことは、障がい者スポーツへの理解を深めるだけでなく、誰もがスポーツを楽しめる共生社会の実現にもつながると考えています。

さらに、2025年10月11日に広島のみなと公園で開催された「第3回 車椅子ソフトボール&フレンドリーマッチ in Hiroshima」では、目録贈呈式を実施し、当クラブ会員も多数参加しました。会場では実際に競技用車椅子に乗って体験会にも参加し、車椅子の操作の難しさと、パラスポーツの持つ迫力・魅力を直に体感することができました。

本事業は、クラブ会員の理解と協力のもと、地域のニーズに即した社会奉仕活動として形にすることができました。今後も、地域社会との連携を大切にしながら、奉仕活動を通じて、多様性と共生を支える活動を継続してまいります。





地区補助金事業報告〔宇部西RC〕 障がい者施設へ介護用電動ベッドを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 宇部西RC 会長
橋本 忠直
(宇部西RC)

当クラブとしては、以前から「ハンディのある子供たち」の施設に対して支援を行うことが伝統的に行われてきました。今回は身体障がい、知的障がい、精神障がいの子供たちを対象に運営している社会福祉法人「南風荘」を対象に支援を行うことといたしました。この施設は大きくは安心安全な生活を送るための支援、自立した地域生活を送るための支援を行っています。利用者別人数は毎年変動がありますが、現在は身体障がい120人、知的障がい172人、精神障がい63人合計約355人となっています。

多種多様な障がい者を収容しており、何が今一番望まれているか、施設側の要望をお聞きし、出された要望は介護専用の電動ベッドであるということでした。

その理由としては、入所者の中で特に問題が発生しているのが、ベッドから車椅子に移動、移乗するとき、事故対策として多くの多数の職員のサポートを必要とし、この日常の負担軽減対策を図ることが、事故対策に有効であるとのこと、利用者の自立支援にも応用できるとのことでした。

現在のこの電動ベッドの効用により、介護者、利用者共々身体的負担が軽減され、お互いに心理的余裕が生まれ、転倒防止に随分役立っているとのことでした。

施設の入所者で重度の高い順にベッドが利用されていますが、寄贈できたのはわずか3台でした。地区補助金をすべて活用しても、3台止まりです。

施設の入所者も年月の経過とともに、高齢化、身体的重度化が進んでおり、当然介護の質も複雑化し、このような施設の運営は「善意」「ボランティア」の支援は当然求められています。介護、見守り、などは人的資材に頼らざるを得ないところが多いと実感いたしました。人的資材以外にも、ITなどのソフト的な開発により、もっと「笑顔」が自然にみられるようになればと思います。

勿論、理事の方々には医師をはじめとして多くの専門家がおられますので、総合的な「改善」がすすんでいることは確かです。わたくしたちロータリアンがソフト面でなにかができるか追及していきたいと思っております。

IT関連の支援とまではいきませんが、ロータリアン



の参加としてできる施設のレクリエーションとウエス加工の共同作業に参加いたしました。

その一端をご紹介します。

レクリエーションとしては、保護者なども含めた軽運動会に参加いたしました。この軽運動会に「ポッチャ」という競技があり、ロータリアンはこの競技をテレビでみたことはありましたが、初めての競技で、ルールも分からず参加いたしました。障がい者の子供たちは慣れたもので、次々とお手玉みたいなものをうまく投げていきました。ロータリアンは全くかなわない競技でしたが、大きく失敗するたびに、笑い声が絶えませんでした。

運動は精神的に明るくなれるもの、言葉以上に親しくなれるものと実感いたしました。

また、ウエス加工の軽作業に共同で行いました。ウエスにする資材は、市内にある市役所のふれあいセンターに古着回収ボックスがあり、ここに市民が投入したものを、施設側が回収し、ウエスに向く資材を選んでいるとのこと。

電動ミシンによるウエス加工にもいろんな要領がありクラブ会員は障がい者に習いながら作業をいたしました。はじめは、むしろクラブ会員のほうにとまどいがあり、そのうち、会話が進むようになると、全体が柔らかな雰囲気となり、作業も軽快にできるようになりました。共同作業は、クラブ会員も障がい者とのコミュニケーションの仕方を学んだところ。また、このウエスは自動車会社、鉄工所などいろんなところで高品質であると評価され、完売すること、障がい者の自立支援に大きく役立っていることがよく理解できました。

地区補助金事業報告〔広島東南RC〕 広島記念病院にシャワーストレッチャーを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島東南RC



奉仕プロジェクト理事 渡邊 直樹

社会奉仕担当リーダー 菅 富誉樹

ロータリー財団担当リーダー 大井 克元

当クラブは、毎年様々な地区補助金事業を実施しております。過去には、東日本大震災の後、被災した宮城県の小中学校に、再生した中古ピアノや学習機材を寄贈する事業も数年にわたり継続して実施しました。

また、今年度を含め、公立の病院に必要とされる機材を寄贈する事業も数多く実施してまいりました。当クラブには公立病院の病院長を含め医師の会員が多く在籍しており、そのネットワークにより、地元の各種公立病院のニーズをヒアリングした上で、事業を選定し、実施しております。

地区補助金事業の申請にあたっては、地区財団委員会の内規に様々な規定があり、それらに合致しなくてはなりません。

例えば、国・公共団体・独立行政法人への寄贈プロジェクトは、原則不可となっています。

しかしながら、皆様もお聞き及びと思いますが、全国の公共病院の大半が赤字経営となっており、予算配分についても、治療に直結するものの優先順位が高く、入院患者のケア向上や介護士の負担軽減に資する機材の調達は見送られているのが実情です。

寄贈先のニーズの実態を細かくヒアリングした結果、この度の寄贈先である広島記念病院は、200床の入院病棟があり、要介助の入院患者に対し、シャワーに使えるストレッチャーは2台に留まり、それを病院全体で長年使い回しているのが実態でした。ヒアリングの中で、要介助患者の入浴がどれ程大切で、また、看護師の負担がどれほど大きいかを把握できましたので、地区補助金事業として申請することをクラブとして決定致しました。

申請にあたっては、第2710地区ロータリー財団委員会の委員の方に、詳細なニーズと寄贈による受益者への恩恵の大きさをご説明して、申請に対するご承認を頂き、事業を実施することが出来ました。寄贈に当たっては、病院長、看護部長からも大変感謝するとの謝辞を頂き、実施して良かったと会員全員が感じることができました。

地区補助金事業は、ロータリーの奉仕の精神に合致し、人道的支援に資するものでなければいけません。支援先のニーズと事業の意義を深く掘り下げて、地区ロータリー財団委員会とよく相談すれば、内規に囚われず、様々な地区補助金事業が実施できるのではと思います。





地区補助金事業報告〔宇部RC〕

フリースクールの子どもたちへパソコンとプロジェクターを寄贈

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 宇部RC ロータリー財団委員長

笹本 英雄

(宇部RC)

【プロジェクト名】

フリースクール「さなぎ」に対し、環境整備に資するパソコン1台、プロジェクター1台、プロジェクターケース1台を寄贈

【プロジェクトの概要】

全国的にも不登校児童や不登校生徒が増加傾向にあるなか、宇部市においても2024年度は446名(小・中学生のみ)の児童・生徒が学校に通えない状況下であり、過去最多を記録しました。

こうしたなか、フリースクール「さなぎ」では、ひきこもりの児童・生徒が生きる目的を自らが考え、個々の目標を見つけるための持続的、継続的な支援活動を実施されています。

当該団体の白石代表は、長年にわたり県や市の職員として臨床心理士・公認心理師の資格を活かし、カウンセラーとしての実績が豊富で、団体構成員も元教員が4名、現役医師1名、大手企業の事務職1名の全7名体制で全てボランティアとして運営されています。しかしながら設立が2023年6月とまだ日が浅く、通信インフラの環境整備が不十分であり、施設を利用する児童・生徒に対し、通学時と同様の情報伝達が出来ていない実態がありました。そこで、施設専用のパソコンならびにプロジェクターを設置することで、通信インフラ環境整備の改善を図ることを目的に実施することとしました。

【実施報告】

2025年9月24日(水)に、清水会長をはじめ、ロータリー財団委員会の小川理事、片岡前委員長と私の4名でフリースクール「さなぎ」を訪問し、贈呈式を挙りました。その際に、白石代表より感謝状を頂きました。

また、11月の「ロータリー財団月間」にあわせて、白石代表を11月27日の例会にお招きし、「不登校支援について」と題して卓話をしていただきました。

今後の取り組みとして、少しでも多くの方にフリースクールの存在を知ってもらい、早い段階で児童・生徒はもちろん、ご家族にも気軽に相談して頂けるように、会員企業の従業員様に対して訪問講義を実施していく予定です。

【卓話より抜粋】

フリースクールとは、学校に行けない子供が安心して過ごせる「居場所」であり、自分のペースで学び直したり、体験活動をしたり、人との関りを通して心を整え、未来



へ進む力を育てる場所をいいます。「こうしなさい」ではなく、「どうしたい?」を大切に、先生のように教えるのではなく、一緒に考えたり話しを聞いたり、そっと側で寄り添う存在であることを意識し、学校には行かなくても「学びたい」「人と関わりたい」「安心したい」…そんな気持ちを大切にできるのが、フリースクールです!と説明がありました。そして、学校への再登校を最終目標とせず、子供自身が社会の一員として何が出来るのか、何をしたいのかを見つけ、将来は自立して働き、納税者として歩んでいける力を育むことを目標にしているそうです。

【最後に】

宇部ロータリークラブでは、地区補助金を活用した取り組みを積極的に行っており、今年度で13年連続の実施となりました。この地区補助金を活用した取り組みで一番重要な事は、単発的な支援(物品等の寄贈のみ)で終わるのではなく、「支援の効果が認められること」が最も重要であると考えています。13年前にご支援させて頂いた団体とは、未だに毎年開催される「うべ福祉まつりバザー」へ会員が持ち寄った遊休品を販売し、売上金を全額寄付することで、今でも継続的に関わりをもっています。このように、今回で13団体目に加わり、更に支援の輪が広がることを喜びと捉え、当クラブは次年度以降も真に支援が必要な団体があれば継続して地区補助金を活用したいと考えています。



地区補助金事業報告〔福山赤坂RC〕

地域密着型ボランティア団体へ必要物品を支援

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 福山赤坂RC ロータリー財団委員長

原 隆之

(福山赤坂RC)

福山赤坂ロータリークラブでは、福山市社会福祉協議会へのヒアリングを通じて、地域密着型ボランティア団体「DO笑店」(ドウショウテン=備後弁で「調子はどう? ご機嫌いかが?」という意味)の活動を学びました。

同団体は、福山市内を拠点に、生活困窮者や地域住民を対象として、主に日用品・衣類・寝具・食料品等を無償提供する支援活動を行っており、活動資金の大部分を自己負担と、善意による寄付により賄いながら、15年間にわたり継続的な草の根活動を実施されています。

また、地域の情報交換や就労支援の場として施設を開放し、必要に応じて公共団体とも連携するなど、公的支援では対応が難しい部分を補完する重要な役割を担っていらっしゃいます。

当クラブでは、地区補助金を活用した支援プロジェクトの検討にあたり、施設関係者および利用者(計40名)を対象に、活動環境に関するヒアリングおよび現地調査を実施しました。その結果、以下の課題について回答の約95%が共通認識として挙げられました。

- ①利用者の集会時、物品の仕分け作業、就労支援時に使用するテーブルおよび椅子が不足しており、また収納棚の不足により物品管理が適切に行えない状況である。
- ②建物の電気設備上の制約によりエアコンの設置が困難であり、夏季には室内温度が高温となり、利用者および支援活動に支障をきたしている。
- ③寄付で提供される冷凍食品を保管するための冷凍設備が不足しており、支援物資の有効活用ができていない。

これらの課題を踏まえ、当クラブでは、

- ・会議用テーブル:2台
- ・折り畳み椅子:10脚
- ・スチールラック:1台
- ・冷凍庫:1台
- ・工業用扇風機:2台

を寄贈するプロジェクトとして取りまとめ、地区補助金の申請を行いました。

また、本プロジェクトの実施に先立ち、8月26日の例会において福山市社会福祉協議会より講師をお招きし、「地域福祉の現状と社会福祉協議会について」をテーマとした卓話を実施しました。

卓話では、福山市における生活困窮者への食糧支援・物資提供の現状、高齢者見守り活動、災害ボランティア

センターの運営状況など、地域福祉の多岐にわたる課題をご紹介いただき、本プロジェクトの意義をクラブ会員全体で再確認する機会となりました。

9月26日に実施した本プロジェクトに於ける物品寄贈および贈呈式では、社会奉仕委員会およびロータリー財団委員会のメンバーを中心に15名が、施設内の整理、寄贈品の組み立て、搬入・設置作業を行いました。残暑厳しい中ではありましたが、関係者との交流を深めながら作業を進めることができました。

作業の間には、

「面接に着て行くスーツがない」

「子どものオムツが不足している」

といった、相談に訪れる利用者がいらっしゃるなど、生の声を直接伺う機会もあり、会員一人ひとりが地域福祉の現状を肌で感じる貴重な体験となりました。

さらに10月19日には、福山市社会福祉協議会主催のイベントに「DO笑店」と共に参加し、来場者へ生活必需品を無償提供する支援活動にも協力しました。加えて、本プロジェクトを通じて得た気づきを踏まえ、トイレトーパー、ティッシュ、肌着、タオル等、生活再建の初期段階に必要な物資を会員から募り、提供する追加支援活動も今後計画しております。

今回の地区補助金を活用したプロジェクトによって「DO笑店」が、適時、適量、適切な物品を提供できる様になる事で、より迅速かつ手厚い支援活動が行え、一人でも多くの方の自立支援につながることを願っております。

福山赤坂ロータリークラブは、今後も、17年間継続している善行児童表彰事業と同様に、多くの方が知ることのない「日の目に当たらない行動や活動」に光を当てる奉仕活動・支援活動にも、積極的に取り組んでまいります。





地区補助金事業報告〔広島北RC〕 広島市手をつなぐ育成会への就農支援事業

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 広島北RC 社会青少年奉仕委員長
秋山 竜一
(広島北RC)

当クラブでは今年度、社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会(以下 育成会)に地区補助金を使わせて頂き就農支援事業を実施しました。育成会は1958年に創設されA型、B型を複数併設する歴史ある就労支援施設で、非定期利用を合わせると100名近い障害者の方が仕事をされています。地元企業を中心に業務を継続して受託していますが、就労支援施設の常として工賃が決して十分とまでは言えず、業務内容は組み立て作業が中心であり受注量にもバラつきがあるといった課題がありました。

そこで当クラブでは職員さんへの聞き取り調査をもとに、果樹の苗木を7種類16本、及び必要な農業資材を寄贈することにしました。複数種の苗木を植えることで果樹ごとにやるべき仕事が適度に分散して予定をもって取り組めること、もともと食品販売をしていることから、将来的には実った果樹をジャムやケーキに加工した付加価値型の仕事の可能性も広がることに意義があると感じたためです。(どんな組織においても将来につながる話は大変、張り合いが出ます)

また、仕事やお金と直接のかかわりはありませんが、植物のお世話をするのは利用者さんのやり甲斐や施設の景観改善といったことにもつながると育成会から前向きな意見を頂きました。毎年の肥料代を節約するため施設周辺に出た落ち葉を集め、たい肥化する案も近隣への貢献にもなると快く賛同していただきました。

ただ、実際の寄贈にあたってはハードルも多くありました。最初の課題は果樹が「生き物」だったことです。寄贈後に枯れる可能性はどの程度あるのか、日照、水やり、水はけは十分か、果樹が仮に実っても虫害や鳥害に問題ないのか、継続的なお世話が可能なのか、等の課題が出ました。こちらは園芸や農業の経験のあるベテラン会員の皆様中心に多くのアドバイスを頂いたうえで果樹(と防鳥ネット)を選定し、寄贈後の防虫ケア含めた寄贈案にしました。

次の課題は寄贈想定の場合が埋立地で土が固く、果樹の生育に不向きなことでした。高圧電線も埋設されていることが後からわかり、素人作業で掘り込み作業をするには限界があると感じたので建設会社を運営している委員に相談したところ、手弁当に近い工事費で掘り込みの前工事と棚の設置をしてくださいました。畔板(あぜ



いた)も組んで土を高くとり水はけの問題も改善できました。

このように、様々な知恵を会員の皆様から頂きながら贈呈に臨み、贈呈式当日も植樹や付属設備の仕上げについては他の技術系の委員も加わり図面を見て手際よく作業を進めてくれました。一つの作業を協力してやるとコミュニケーションが進むわけですが、当日も組み立てを上手な人が見本を見せて周囲がそのやり方を聞いたり真似たりする形で想定の半分程度の時間で(かつ楽しく)、全員参加での作業ができました。

反省点としては自分が社会青少年奉仕委員の経験が浅く、また人を介した依頼というのが苦手でもあったため、地区への申請やそれに必要なクラブ内での相談や承認もタイトになり関係者に余分な負担をおかけしたことです。この辺は頭では理解していても、なかなか段取りが組めなかったと感じています。ある委員からは何でも抱え込まずもっと周囲を頼ってください、という言葉ももらい、もし次回に同じ事業をやるならもっと前もって色々段取りと相談をしたいと思います。

最後になりましたが奉仕事業に参加して下さった多くの会員、また地区補助金申請の窓口で相談に乗って下さった広島西南RCの佐藤委員と地区委員の皆様、ありがとうございました。



呉ロータリークラブ創立75周年記念式典報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 呉RC 会長

山村 貞夫

(呉RC)

2025年11月13日、呉ロータリークラブは創立75周年を迎え記念例会及び記念祝賀会が執り行われました。会場の呉阪急ホテルに会員、来賓、会員家族、OB、OG会員、115名が一堂に会し、和やかな中にも歴史と伝統を重んじる記念例会、そして和やかで楽しい会話の弾む祝賀会の素晴らしい一日になりました。

3階の記念例会会場前では、お出迎えの間にも来客の皆様にも楽しんでいただける様に「煎茶応接体験」を開催し、一般社団法人 煎茶道三葵亭賣茶流呉支部より3名の先生に煎茶でのおもてなしをご指導いただきながらお茶を楽しむ催しを行いました。

また17時30分のドアオープンに合わせ、ハーブとギターの演奏にて会場への案内を行いました。

記念例会は18時に開会し、国歌斉唱、ロータリーソングに続き物故会員への黙とうで幕を開けました。お客様紹介があり、会長による式辞では呉ロータリークラブの75年の歩みの紹介、ロータリー精神に基づく地域貢献への取り組み、これからの80周年そして100周年への展望を紹介いたしました。

続いて来賓としてお迎えした国際ロータリー第2710地区ガバナー補佐 湯澤俊樹様、いつも近隣の4ロータリークラブでお世話になる呉東ロータリークラブ会長 石田雄様、呉南ロータリークラブ会長 平尾圭司様、江田島ロータリークラブ会長 角秀司様を代表して湯澤ガバナー補佐より祝辞を頂きました。また、呉ロータリークラブOBで今は厚木ロータリークラブ所属の川畑直也様とのバナー交換を行い旧交を温めました。

恒例の歴代会長感謝状贈呈では、長尾正嗣、福田多喜二、増岡真一、大上功、長行事義人の5名の会長歴任者に感謝状を贈り功績を称えました。

記念例会終了後は会場を4階の広間に移し記念祝賀会の開催です。

ここでもハーブによるウェルカム演奏で皆様を会場にお迎えしました。

志々田幸治式典実行委員長による開会あいさつに続き呉阪急ホテル社長で呉ロータリークラブメンバーの橋本良品氏によるカクテル実技のパフォーマンスで会場を盛り上げ、直前会長大上功氏の乾杯により祝賀会が開催されました。

この日のメニューには会員の日下美穂医師の提唱する「減塩前菜」が添えられました、会員持ち込みの自慢のワインなどが提供されました。ホテルの料理も美味しく素晴らしい食事の時間となりました。その間、呉ロータリークラブの歩みをビデオ上映で紹介し懐かしい思い出に話が弾みました。

会長の年間テーマである「ロータリーについて更に深く語り合おう」を当日の祝賀会に取り入れ、華々しいアトラクションは行わず、来賓、OB OG、会員家族そしてメンバーで呉ロータリークラブについてゆっくりと語り合う時間を設けました。そこではこれまでの活動の思い出話や今後の奉仕活動について活発な意見交換がなされ、クラブの一体感を更に強くする場となりました。

また、公募により選ばれた重川智美会員の75周年のキャッチフレーズ

「祝75周年 ～奉仕の心、次の時代へ、希望をつなぐ～」を実践すべく過去の歩みを振り返るとともに、未来への希望を語り合い、会員の奉仕の精神、地域社会との絆、国際貢献への取り組みをもって、次なる100周年に向けて新たな一歩を踏み出す決意が固められた式典、祝賀会となりました。





府中ロータリークラブ創立60周年記念式典報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 府中RC 会長

原田 雅文

(府中RC)

府中ロータリークラブは1965年11月25日に福山ロータリークラブをスポンサークラブとして創立、2025年11月25日をもって60周年を迎えることが出来ました。広島県府中市にある明治5(1872)年に開業した割烹旅館で、現在は国登録有形文化財となっています「恋しき」にて11月30日(日)17時から福山ロータリークラブの昼田会長、細川幹事様にお越しいただき、記念例会そして記念祝賀会を開催しました。本来ですと、グループ10-11地区の全てのロータリークラブの会長、幹事様をお招きすべきところですが、ご存知の通り当ロータリークラブは15名という少人数でありますので、式典準備や当日の手配段取り等の手が回らない事から、内輪のみで厳かに記念例会・記念式典を開催させていただきました。

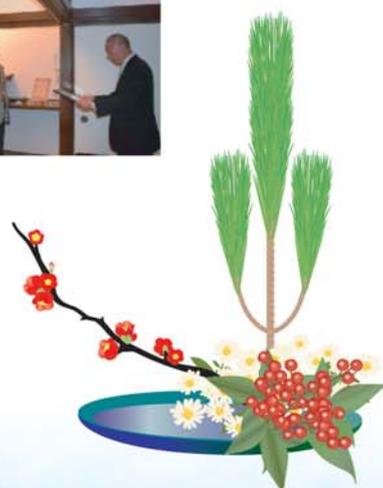
コロナ禍の影響で2020年11月の創立55周年記念式典を開催していませんでしたので、10年ぶりの記念例会・記念式典開催となりました。また、過去10年間の歴代会長経験者8名に感謝状と記念品を贈呈し、感謝と慰労を行いました。

会長挨拶の中で、今期のフランチェスコ・アレツォRI会長のテーマは「よいことのために手を取りあおう」であり、又、第2710地区土肥ガバナーは「エンジョイ・ロータリー 思いやりと奉仕の心で」をテーマとされています。私の今年度の重点目標を

1. 会員同士の親睦を温め、楽しいロータリークラブであり続けよう。
2. 府中ロータリークラブ60周年の節目を迎えた事に感謝し、奉仕の理念に立ち返ろう。
3. 地域発展のために、ロータリー活動を通じて一人一人が今出来る事を実践しよう。

としております。少人数ではございますが、この度中山弁護士さんへ加入いただき徐々に会員が増加しました。楽しいクラブでそして奉仕の理念に今一度立ち返り、結果として会員の増強にも繋げて行きたいと思っております。

当日は、福山ロータリークラブの昼田会長、細川幹事様に最後までお付き合いをいただき、また、地元の4人グループ「かぐや」による生演奏も会に花を添えていただき大変和やかな祝賀会が出来ました。





「国際ロータリー 世界ポリオデー in 下関海響マラソン2025」報告

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度 地区幹事

古本 泰司

(東広島21RC)

2025年11月2日(日)、下関海響マラソン2025が開催されました。

本年は10月24日の「世界ポリオデー」に合わせ、土肥ガバナー年度として「国際ロータリー 世界ポリオデー in 下関海響マラソン2025」を企画し、地区内各クラブに参加を呼びかけました。正式な案内は4月30日に文書にて発信しましたが、地区研修・協議会等での事前周知もあり、土肥ガバナー予想を大きく上回る136名(フルマラソン:25名、ファンラン:48名、応援:57名、ローターアクター:6名)もの参加をいただきました。

参加者全員が赤い「END POLIO NOW」Tシャツを着用し、一体感とともに強い印象を与える姿となりました。

スタート前には応援の皆様が「END POLIO NOW」の幟を掲げ、フルマラソンおよびファンランの走者を熱く見送りました。ファンランでは幟を持って走る方や仮装で参加される方もおり、まさに楽しく賑やかな雰囲気になりました。

走者を送り出した後は、「オーヴィジョン海峽ゆめ広場」に設置したテントブースにて、ポリオ根絶に関する啓発活動を実施しました。土肥ガバナー作成による*END POLIO NOW缶バッジ(1,000個)*の配布に加え、地区ローターアクト活動報告およびポリオ根絶に関するチラシを配布し、地域の皆様にポリオ根絶やロータリーおよびローターアクトの活動を広く知っていただく良い機会となりました。

また、午前中には地元コミュニティFM局「カモンFM」様より生放送取材を受け、地区ローターアクト代表の藤岡小雪さんが出演し、地域に向けてポリオ根絶活動や地区RAC活動内容を紹介しました。

本活動を通じて、地域社会へのポリオ根絶運動の理解促進と、ロータリーの社会貢献活動の認知向上につながる有意義な機会となったと思います。

土肥ガバナーは今回で3回目のフルマラソン挑戦となりましたが、見事5時間を切るタイムで完走されました。記録は4時間55分32秒で、特に地区ガバナーという忙しい

立場での挑戦ながら、これまでの努力の成果を感じさせる素晴らしい結果でした。

マラソン終了後は、シーモール下関・シーモールホールにて、土肥ガバナー主催の懇親会を開催いたしました。マラソン終了直後のお疲れのところにもかかわらず、80名もの皆様にご出席いただきました。本懇親会は、地区の皆様とのさらなる交流と親睦を深める貴重な機会となったことと思います。

懇親会は、土肥ガバナーのご挨拶から始まり、続いて地区ローターアクト代表・藤岡小雪さんより、ポリオ根絶活動へのご参加へのお礼と、今後の募金活動への呼びかけがありました。

その後、小根森ガバナーノミニーによる乾杯のご発声のもと、しばしご歓談の時間となりました。乾杯の掛け声は、もちろん「Enjoy Rotary」でした。

また、脇ガバナーエレクトにもご参加いただき、ご挨拶と次年度の地区ポリオデー開催に関するご意見を頂戴しました。

歓談の後には、参加者全員で記念撮影を行い、最後に杉川バスターガバナーから温かい閉会のご挨拶を頂き、和やかな雰囲気の中で閉会いたしました。

最後に、懇親会会場にて皆様からお寄せいただいた「エンドポリオ」への募金金額をご報告いたします。募金の総額は102,589円となり、この度、地区事務局を通じて財団へ振込させていただきました。

改めまして、多大なるご支援とご協力に心より御礼申し上げます。

また、「国際ロータリー 世界ポリオデー in 下関海響マラソン2025」の様子につきましては、東広島21ロータリークラブ公式Facebookページにて多数の写真を掲載しております。ぜひご覧いただき、現地の雰囲気を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご協力いただきました、富永洋一マラソン実行委員長、田淵清隆下関北RC会長をはじめG1のロータリアンの皆様、ご参加いただきました皆様に心から感謝を申し上げます。



東広島 21RC
FaceBook ↓



国際ロータリー第2710地区 — 2025-26年度 新会員紹介 —

山田 康雄 下関中央RC 2025年12月13日 公認会計士	手島 健一 下関北RC 2025年12月2日 鉄筋工事業	松島 隆二郎 宇部RC 2025年12月4日 信用金庫	熊谷 楓也 徳山RC 2025年12月17日 道路建設	多田尾 健一 徳山RC 2025年12月17日 産業廃棄物処理	筒井 信一郎 広島RC 2025年12月16日 信用金庫	松元 遼樹 広島安佐RC 2025年12月4日 グランピング施設	藏永 幸之介 広島安佐RC 2025年12月4日 映像制作
齋藤 郁花 広島東RC 2025年12月3日 コンサルティング事業	木村 裕子 広島東RC 2025年12月3日 食品小売	金村 裕子 広島東RC 2025年12月3日 生命保険	谷口 隆子 広島北RC 2025年12月17日 自動二輪販売	金井 貴裕 広島中央RC 2025年12月8日 ビルディング管理	新宅 栄三 広島中央RC 2025年12月8日 ハードウェア製造・販売	蛇蝮 悠太 広島中央RC 2025年12月8日 商業写真	山本 裕司 福山赤坂RC 2025年12月2日 和菓子販売

国際ロータリー第2710地区 2025-26年度会員増減・出席率(2025年12月度)

グループ	クラブ名	平均出席率	会員数					
			7/1	当月	本年度	7/1	入会	退会
1	長門	85.94	25	25	3	1	1	
	下関	72.51	43	45	2	2	0	
	下関中央	69.23	38	40	7	2	0	
	下関東	69.62	65	65	6	1	1	
	下関北	72.17	58	58	4	1	1	
	下関西	81.62	33	31	0	0	2	
	計	75.18	262	264	22	7	5	
2	萩	78.40	42	40	3	1	3	
	萩東	83.13	25	23	1	0	2	
	美祇	70.48	18	20	1	2	0	
	小野田	82.24	31	37	4	8	2	
	宇部	93.92	38	38	5	2	2	
	宇部東	74.39	9	9	1	0	0	
	宇部西	86.32	49	50	6	1	0	
計	81.27	212	217	21	14	9		
3	防府	90.63	57	57	2	1	1	
	防府北	83.50	22	22	3	1	1	
	防府南	85.66	44	45	9	1	0	
	山口	78.59	44	49	5	5	0	
	山口県央	86.19	24	25	2	1	0	
	山口南	93.60	42	41	7	0	1	
	計	86.36	233	239	28	9	3	
4	光	79.25	52	53	5	2	1	
	周南西	82.78	57	58	7	3	2	
	徳山	99.12	40	43	2	5	2	
	徳山セントラル	79.88	20	21	3	1	0	
	徳山東	100.00	42	42	2	0	0	
計	88.21	211	217	19	11	5		
5	岩国	75.72	66	68	1	2	0	
	岩国中央	85.71	38	38	6	1	1	
	岩国西	84.52	64	65	6	2	1	
	柳井	89.41	25	24	1	0	1	
	柳井西	98.74	26	26	6	0	0	
	計	86.82	219	221	20	5	3	
	6	広島	99.52	123	133	3	13	3
		広島安芸	99.67	33	35	4	2	0
		広島安佐	82.07	13	18	3	6	1
		広島東	96.31	108	125	14	18	1
広島北		93.63	102	102	0	1	1	
広島陵北		96.66	44	46	4	4	2	
大竹		85.47	24	25	0	1	0	
計	93.33	447	484	28	45	8		
7	広島中央	100.00	62	67	5	7	2	
	広島廿日市	87.04	24	20	2	0	4	
	広島城南	100.00	40	39	3	1	2	
	広島南	100.00	86	87	0	3	2	
	広島東南	100.00	84	86	12	3	1	
	広島西南	99.52	77	77	5	3	3	
	広島西	99.67	92	93	7	2	1	
計	98.03	465	469	34	19	15		
8	江田島	91.90	17	16	0	0	1	
	東広島	82.84	23	25	3	2	0	
	東広島21	90.51	21	21	3	1	1	
	呉	84.76	71	71	5	0	0	
	呉東	76.39	34	35	3	1	0	
	呉南	92.43	43	44	1	1	0	
	西条	99.93	44	46	1	2	0	
広島新世代	38.28	0	22	3	22	0		
計	88.75	253	280	19	29	2		
9	広島空港	82.10	28	27	4	0	1	
	因島	93.52	14	15	0	4	3	
	三原	87.90	49	49	1	1	1	
	尾道	73.79	77	78	2	1	0	
	尾道東	87.82	47	48	7	3	2	
	計	85.03	215	217	14	9	7	
	10	府中	86.09	14	14	2	0	0
		福山	93.67	85	83	2	4	6
		福山東	78.30	32	34	2	5	3
		福山丸之内	88.65	22	22	1	0	0
鞆の浦		72.23	15	15	0	0	0	
福山REC2710*		100.00	7	7	1	0	0	
計		86.49	175	175	8	9	9	
11	福山赤坂	81.90	52	52	4	1	1	
	福山北	91.63	32	30	2	0	2	
	福山南	71.00	56	58	4	3	1	
	福山西	86.33	40	39	5	2	3	
	松永	95.84	54	53	7	0	1	
計	85.34	234	232	22	6	8		
12	吉舎	93.83	9	9	0	0	0	
	三次	71.17	40	42	1	2	0	
	三次中央	92.87	33	32	5	0	1	
	庄原	90.81	26	25	2	0	1	
	東城	92.58	14	13	0	0	1	
計	89.76	122	121	8	2	3		
第2710地区計	86.55	3048	3136	243	165	77		

*正式名称「福山ロータリーEクラブ2710」



地区大会 in 宇部



2026年
10月23日 金
24日 土
25日 日



地区大会 前日

10月23日 金

■ 宇部72カントリークラブ・阿知須コース
「記念ゴルフ大会」

地区大会 1日目

10月24日 土

■ 国際ホテル宇部

- 大会委員会
- 会長・幹事会
- 基調講演: 三浦 房紀 氏
- RI会長代理歓迎晩餐会

地区大会 2日目

10月25日 日

■ 大会 / 宇部市渡辺翁記念会館

- 本会議
- 記念講演

元バドミントン日本代表
小椋 久美子 氏



【プロフィール】

三重県出身。8歳の時、姉の影響を受けバドミントン始める。2001年の全国高校選抜でシングルス準優勝を果たす。三洋電機入社後の2002年には全日本総合バドミントン選手権シングルスで優勝。その後、ダブルスプレーヤーに転向し、北京オリンピックで5位入賞、全日本総合バドミントン選手権では5連覇を達成。2010年1月に現役を引退。現在は子供たちへの指導を中心にバドミントンを通じてスポーツの楽しさを伝える活動を行っている。



国際ロータリー第2710地区
2026-27年度 ガバナー

わき かすや
脇 和也

ホストクラブ 宇部ロータリークラブ

コ・ホストクラブ 宇部西ロータリークラブ
宇部東ロータリークラブ

2026-27年度
国際ロータリー第2710地区 地区大会 大会事務局
〒755-0043 宇部市相生町8-1 宇部興産ビル6F
TEL 0836-35-2776